別紙３

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

科学的根拠に基づいたがん免疫療法の評価とPublicity

研究分担者　有賀　淳　東京女子医科大学教授

研究要旨　社会におけるがん免疫療法の正しい理解を広める目的で、専門家による市民公開講座を実施した。令和元年9月14日午後に帝京大学板橋キャンパスにおいて、患者の会より1名、研究所より1名、腫瘍内科及び先端医療科より各々1名の合計4名の講師による講演が実施され、一般聴衆110名、学内者19名、学生7名の合計136名の聴講者が参加して、質疑応答が活発に行われた。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名
有賀　淳・東京女子医科大学先端生命医科学研究所　教授

A．研究目的

近年、がん治療として話題性の高いがん免疫療法であるが、国内では科学的根拠に基づく方法のみならず、多くのがん免疫療法が実施されている。本研究は、科学的根拠に基づいたがん免疫療法の正しい理解のために、専門家による公開講座を実施して、社会に正しい知識を広めることを目的として実施した。

B．研究方法

令和元年9月14日（土）午後14時～16時30分に帝京大学板橋キャンパスの大学棟本館2階209号室において、肺がん患者の会ワンステップより長谷川一男氏、帝京大学医学部腫瘍内科より関順彦氏、国立がん研究センター中央病院先端医療科より北野滋久氏及び本研究分担者有賀の4名によって公開講座を行い、質疑応答による総合討論を実施した。また、終了後に参加者に本公開講座に対する自由記載のアンケート調査を実施し、本公開講座の有用性と理解度について考察した。

C．研究結果

公開講座には一般参加者110名、帝京大学内より19名、学生7名の合計136名が参加した。講演は長谷川氏の「藁をもつかむ気持ちにどう抗うか」、有賀の「がんと闘う、免疫療法のしくみ」、関氏の「ここまで進んだがん薬物療法～免疫療法の光と影」、北野氏の「がん免疫療法の新たな展開」のテーマで行われ、肺がん患者の自己体験談、癌免疫療法の基礎的な原理の解説、実臨床でのがん免疫治療の実態、今後のがん免疫療法の展望について述べられた。

公開講座後のアンケート調査の結果では、77件のコメントが集められた。集計すると、ためになった、わかりやすかった、難しかったがそれぞれ32件、18件、14件であり、希望として公開講座の内容の入手（資料配布や関連本の作成など）の希望が数件あった。

D．考察

今回の公開講座は会場がほぼ埋まるほどの盛況であり、がん免疫療法への社会の関心の高さが伺える結果であった。講演内容についてはためになった、勉強になったと答えた参加者が最も多く、公開講座という方法が正しい知識の伝達という目的を達成するために有用であることが示される結果であった。講演内容の難易度についてはわかりやすかった、が難しかった、よりやや多いものの同じ講演内容でも個人の理解度に差があることが明らかとなった。特に、臨床の話題は比較的わかりやすく、基礎的な原理、作用機序などの話題はやや難解となる傾向が認められ、さらに表現を易しくすること、文字よりもイラストで説明すること、などさらなる改善の余地があるものと考えられた。また、参加者より、今回の一般を対象とした公開講座の内容などをまとめた本や資料を作成する要望が複数寄せられ、本研究班が作成を予定しているがん免疫療法のガイドブックに対する期待が感じられる結果であった。

E．結論

がん免疫療法の正しい理解を広めるために、専門家による市民公開講座を行った。多くの参加者を認め、理解を広める有意義な講演が開催され、次への改善に向けたフィードバックが成された。